

産業界等と連携した学びの実践事例

学校名	岡山県立岡山一宮高等学校		
実践場面	オール岡山商工会マルシェへの参加		
実践日時（時期）	令和7年10月18日（土）天満屋岡山本店		
対象生徒（学年）	普通科2年生		
連携の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 包括連携協定（岡山商工会） <input type="checkbox"/> その他（ ）		
学びの分類	<input type="checkbox"/> 講演会講師・説明会 <input type="checkbox"/> 商品開発・共同研究	<input type="checkbox"/> 技術指導 <input type="checkbox"/> 最新技術・設備の見学	<input type="checkbox"/> 企業訪問・インターンシップ <input checked="" type="checkbox"/> その他

実践の内容

【活動内容】

- ・商工会マルシェの企画で「企業紹介ポップの制作」と「企業商品の販売」を体験
- ポップ制作

高校生が、デザインやキャッチコピーを試行錯誤しながら企業のポップを制作した。高校生の視点があり店員からも好評であった。

○販売員体験

「やまかみ農園」の賀寿漬けと「Y's Luce」のカバンを販売した。賀寿漬け販売では、探究活動の一環として取り組んだ。



【実践内容（課題研究の概要）】

- ・2年生の課題探究で、人間の声と機械音声（生成AI）のセールストークにおける違いや有効性について検証した。
- ・研究の動機の一つは、昨今機械音声が動画やアナウンスで増えている中で、人間の音声の必要性がどの程度あるのかを調べるためである。
- ・AI音声はただ打ち込むだけでは聞き取りづらい可能性があるため、速度の調整や、不自然な連続（間がない状態）を避けるための修正が行われました。
- ・AI音声に対するフィードバックとして、人間の持つ「体温」や「温かみ」が感じられず、冷たい印象を与える可能性があること、特に年配の層には響きにくい可能性が指摘された。



【产学研連携コーディネーターの視察】

- ・作成したAI音声について、お客様に合わせた阿吽の呼吸や大事な食材を伝える時などに声のトーンやスピードに変化をつけることが重要であると助言があった。



実践による効果等

- ・生徒は、直接お客様と対話をすることで、探究課題を深めることができる貴重な機会となった。
- ・企業は、高校生のポップ作成や販売体験によって、集客につながった。
- ・世代の違う人の意見などを聞いて、現場に来なければ分からなかつた多くのことを学べた。
- ・探究発表に向けて、いただいた意見を集約、整理することができ、生徒の意欲につながった。